申請者：金　春姫

論文題目　中国における日系製品に対する消費者購買意図の形成
－対日感情が市場に与える影響を中心にして－

審査員　佐藤郁哉
関　満博
山下裕子

本論文は、「世界の工場」として急速な発展を遂げる一方で、巨大な消費市場としてグローバルなプレゼンスを獲得するに至っている中国において、民間レベルでの対日感情が消費者行動に与える影響について、定性、定量両様の調査技法を用いてその因果経路を明らかにしようとしたものである。本論が扱っているのと同様のテーマに関しては、Klein(1998)を嚆矢とする敵意(animosity)研究がある。本論の著者は、その種の研究が主に個人を単位としたサーベイデータのみを用いて実証調査をおこなっていること、また、それゆえに個人レベルでの敵意や製品評価あるいは自民族中心主義的態度などが製品購買意図に影響を与える、という比較的単純な因果経路を想定していることを批判する。著者は、それに対して、準拠集団論や同調研究あるいは合理的行為論など既存の消費者行動研究の領域における理論的枠組みや知見を援用して、個人レベルの態度要因以外にもそれが埋め込まれている社会的文脈が及ぼす影響、とりわけ周囲からの規範的プレッシャーがもたらす影響という要因を組み込んだ修正敵意モデルを構築する。その上で、そのモデルの妥当性について定性的な聞き取り調査と定量的なサーベイ調査を併用して検証しようとしている。

本論文の評価できる点として、以下の３点があげられる。第1に、既存研究の蓄積が非常に少ない領域において、先行研究に対する的確な批判の上に立って独自のモデルを構築しようとしている点である。第2に、単にサーベイをおこなうだけでなく、広範な聞き取りという技法を併用して、その知見のクロスバリデーションをおこなっており、実証研究の綿密さという点でも評価できる。第3の長所は、既存の敵意モデルに対する新たに構築したモデルの優位性を明らかにしようとしているだけでなく、新たに構築したモデルそれ自体についても、対日感情、規範的プレッシャー、製品評価などさまざまな面における地域差および商品カテゴリーの違いによる差を考慮に入れて、さらに詳細なモデルの彫琢をはかっている点である。

本論文の問題点としては、次の２点があげられる。第1に、論文自体の構成において、批判の対象である敵意研究についての比較的詳しい解説と検討が論文全体の後半部分におかれているために、既存モデルの問題点を明らかにした上で聞き取りとサーベイを併用した実証研究によって、修正モデルの根拠を明らかにする、という全体の構成がやや不明確になっている点である。第2に、新たに構築したモデルを、サーベイを用いて明らかにされた地域差および商品カテゴリーの違いによる差という知見によってさらに吟味・彫琢していく、というプロセスが、サーベイという手法が持つ固有の限界もあって、やや手薄になっている点である。
もっとも、これらの欠点は、決して上記の長所を損なうものではない。

よって審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第５条第１項の規定により一橋大学博士（商学）の学位を受けるに値するものと判断する。